1…十分に実践している　2…実践している　3…考えているが実践していない　4…全く考えたことがなかった

17	保育者は、個人のペースに応じて次の活動に徐々に移行するような工夫をしている。	1	2	3	4
18	保育者は、個々の子どもの興味や関心に基づいたねがいや手立てを持っている。	1	2	3	4
19	保育者は、素材の変化や磁石の性質など、子どもの年齢にふさわしい科学的な概念に親しめるような環境を計画的に取り入れている。	1	2	3	4
20	保育者は、海外のお話を聞く機会を設けたり、文化の異なる訪問者を招待したりするなど、異なる文化を意識しながら保育に臨んでいる。	1	2	3	4
21	絵本コーナーには、自然、社会、人々の暮らしや仕事など多様な内容の絵本がきちんと整理されて置かれるとともに、敷物やクッションなどがあり、居心地のよい雰囲気を出している。	1	2	3	4
22	子どもが、音やリズムを楽しむことのできる楽器が自由に使えるようになっている。	1	2	3	4
23	ごっこ遊びのコーナーには、異なる人種や文化の人形や食べ物が置かれている。	1	2	3	4
24	子どもが何か書きたく（描きたく）なったときのために、紙と鉛筆などが準備されている場所がある。	1	2	3	4
25	保育者は、子どもが協同的な活動を楽しめるような空間や素材の準備に努めている。	1	2	3	4

第3部　園内研修の振り返り

リフレクションシートを活用した園内研修はいかがでしたか？
園内研修で学んだこと、感じたことなどを自由に書いてみましょう。

作成　田宮縁（静岡大学教授）、静岡県教育委員会義務教育課幼児教育センター

参考文献
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館　2018年
イラム・シラージほか『「保育プロセスの質」評価スケール』明石書店　2016年
テルマ・ハームスほか『新・保育環境評価スケール①3歳以上』法律文化社　2016年

本研究は、公益財団法人日本教育公務員弘済会より
平成31年度日教弘本部奨励金の助成を受けて行いました

園内研修を活性化して、保育をブラッシュアップ

保育プロセスの質 リフレクションシート

はじめに

**保育のプロセスの質の向上をめざし、
園内研修での活用を想定してデザインしました。**

社会が大きく変化する中、子どもや保護者を取り巻く環境は刻々と変化しています。幼児教育、保育のシステムも変わりつつあり、不安感や多忙感を抱えている保育者は多いのではないでしょうか。また、このような環境で保育の質をいかに担保していくのかも、大きな課題となっています。

働き方改革、若手育成、多様なニーズに応じた教育が語られる中で、保育者が「やりがい」を感じ、明日の保育につながる園内研修、管理職が「やってよかった」と思える園内研修が実現できるよう、比較的短時間で、園内の保育の改善や保育者間の共通理解を図れるツールとして、静岡県版「保育プロセスの質　リフレクションシート」を作成しました。対象年齢は5歳児を想定しておりますが、3・4歳児についても園内研修での活用は可能です。

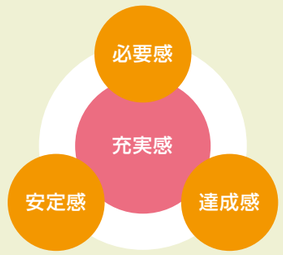
園内研修のきっかけづくり（導入）として活用していただけると幸いです。

概要

**「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や
ECERS、SSTEWなどの評価スケールをもとに作成しました。**

『幼稚園教育要領解説』等による「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の解説文を読むと、抽象的な言葉が多用されています。例えば、「安定感」、「達成感」、「必要感」、「充実感」などです。この評価シートは、「安定感」、「達成感」、「必要感」を伴った生活や遊びが「充実感」につながると考え、これらのキーワードを軸に編集しています。

基本コンセプト



保育者のみなさんは、抽象的な言葉と実際の子どもの姿をどのように結びつけているのでしょうか。独自の教育観や子ども観を持った専門職集団ですから、抽象的な言葉を子どもの姿で語るとき、多少の違いはあると思いますが、同僚の考えに触れることで、視野が広がったり、園全体の保育の方向性を確認したりすることが可能となります。

このシートは、第1部は「基本コンセプトの視点から子どもの姿を振り返る」、第2部は「基本コンセプトの視点から日常の実践を自己評価する」、第3部は「園内研修の振り返り」の3部構成となっています。使い方は、以下の通りです。

手順

1. 事前に、報告者は、第1部と第2部を記入し、研修への参加人数分コピーする。
2. ファシリテーターは別紙の手引きを参考にしながら、共通の課題や中心となるテーマを設定し、研修を進める。
3. 第1部：報告者の報告と話し合い
4. 第2部：各自日常の実践の自己評価と話し合い
5. 第3部：園内研修の振り返り

第1部 基本コンセプトの視点から子どもの姿を振り返る

安定感・達成感・必要感（いずれか一つ）を感じている子どもの姿（エピソード）を書いてみましょう。
※写真があるようでしたら、添付しましょう。イラストを描いても構いません。

安定感　・　達成感　・　必要感　のエピソード（いずれかに○をつけてください）

タイトル

背景（エピソードに至るまでの状況）

エピソード

考察

第2部 基本コンセプトの視点から日常の実践を自己評価する

1～25までを読んで、当てはまる数字に○をつけてください。

1…十分に実践している　2…実践している　3…考えているが実践していない　4…全く考えたことがなかった

1	保育者は、抱っこや手をつなぐなど適切な身体的触れ合いを通して、あたたかな雰囲気を醸し出している。	1	2	3	4
2	保育者は、子どもの表情や身振りなど非言語的な表現を敏感に感じ取り、適切に対応している。	1	2	3	4
3	保育者は、自由な遊びの時間に子どもと個別的な深いかかわりをもっている。	1	2	3	4
4	保育者は、個やグループにかかわっているときでも全体の状況を把握するようにしている。	1	2	3	4
5	保育者は、ダイバーシティ（多様性）を常に意識し、子どものステレオタイプ（固定的な考え方や態度）な行動や発言を冷静に受け止め、対応している。	1	2	3	4
6	保育者は、わらべうたや言葉遊び、なぞなぞ、しりとりなど言葉を豊かにする活動を取り入れている。	1	2	3	4
7	保育者は、順番待ちリストなど必要に基づき書いている姿を子どもに見せている。	1	2	3	4
8	保育者は、水を大切に使ったり、リサイクルに心がけたりするなど環境に配慮するモデルとなっている。	1	2	3	4
9	保育者は、クッキングのときに材料を計量したり、作物の大きさを比べたり、拾ってきたドングリを種類ごとに分類したりして、分類、対応、比較、測定など算数的な活動に適切に関与している。	1	2	3	4
10	保育者は、遊びや生活の中で、いろいろな場面で「美しい形」や「パターン」にふれる機会をつくっている。	1	2	3	4
11	車輪のある遊具で走り回ったり、身体を十分に動かして遊んだりする空間をつくっている。	1	2	3	4
12	保育者は、子どもと話をするときに「足場かけ」（次の段階に進む援助）や「オープンエンド」（答えが一つではない）を心がけている。	1	2	3	4
13	保育者は、子どもが描いた絵やつくったものについて、子どものコメントや表題を書きとめ、作品に添付している。	1	2	3	4
14	保育者は、子どもがやりたいことを自分で準備したり自分のやり方で遊んだりすることを認め、オープンエンドになるように努めている。	1	2	3	4
15	保育者は、ごっこ遊びの中で、子どもの必要感に基づきながら、お店の看板やメニュー、プライスカードなどを子どもと一緒につくっている。	1	2	3	4
16	保育者は、子どもの記録をもとに、指導計画を作成している。	1	2	3	4

4ページへつづきます